

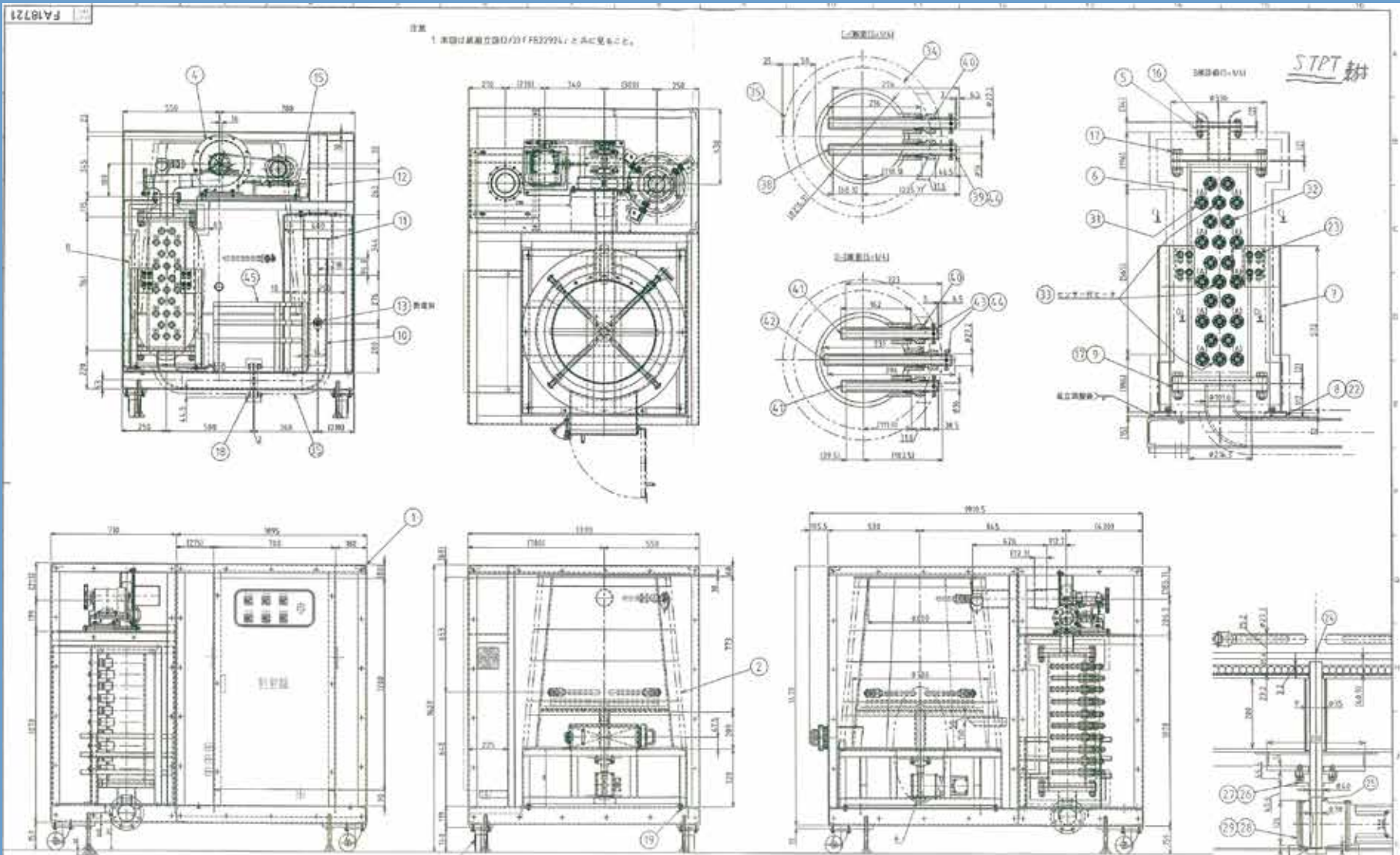


炭にして再利用

熱分解炭化物生産機

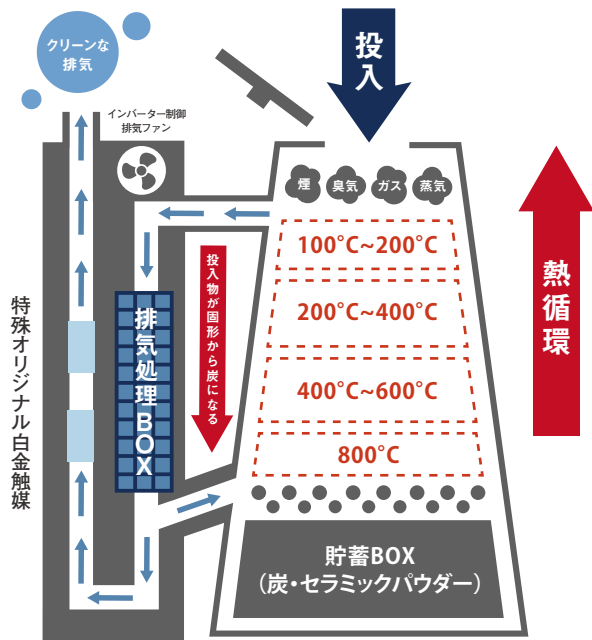


炭化装置図面





炭にして再利用 熱分解炭化物生産機



上部に溜まった排気ガス(蒸気・ガス・臭気・煙)が排気処理ボックスに送られて特殊な分解構造によって処理されます。

接点(極点)部で初期水分蒸発が起こり、その後乾燥して熱分解され炭化していきます。この状態で減容作用が起こり、上から落ちてくる投入物を次々と蒸発、乾燥、炭化していきます。これを繰り返し行い、その後炭化した投入物はセラミック遠赤外線層を通過し、遠赤外線を帯びた無害な炭及びセラミックパウダーになります。

接点(極点)

セラミック遠赤外線層

- 【サイズ】本体幅 約1,810mm×奥行1,330mm×本体高1,445mm
(煙突除く ※煙突の長さ、形状はお打ち合わせにて)
- 【重さ】総重量:約500Kg
- 【電力】電源:200V三相、消費電力:75A/8.5Kw
- 【材質】本体カバー:ステンレス 内部炉:スチール
- 【性能】処理時間:1回約6~12時間(投入物による) 最大処理容量200ℓ未満

○ 投入できる物: 食品/生ゴミ/紙/布/木材/医療廃棄物/使用済み紙オムツ

× 投入できない物: 金属/ガラス製品/陶器/石/貝類

eco1

有機物を入れる
だけでOK

最大12時間後投入された有機物を無害な炭化物に処理します。生成された炭化物は、殺菌効果や鮮度保持剤として再利用可能。

eco2

今までの燃料
石油・石炭
天然ガス不使用

電力のみを使用して稼働します。消費電力の省エネ設計のため今までの自動炭化物生産機よりも電気代を大幅に削減できます。

eco3

特殊構造設計
カートリッジ
ヒータの効果

今までのサイズで実現しなかった水分の多い有機物も吸引乾燥で、素早く処理します。



他社製品との差別化

熱分解炭化物生産機

ハイブリット熱分解炭化物生産機の熱源は【ヒーターユニット(特許製品)】です。

この【ヒーターユニット】は特殊な合金ヒーターを使用しており、省電力で高熱(約800℃以上)を発生し、安心安全で扱いやすく経済的です。

- 熱風乾燥方式は他社では処理できなかった有機物(水分の多い生ゴミや、使用済みの紙オムツ)も炭化及びセラミックパウダーにすることができます。
- 熱風乾燥方式の原理は、特殊ヒータにより熱風となったガスが乾燥させながら上がる事です。
- 乾燥した有機物は自然炭化し、炭化します。炭化された有機物は熱分解炉の底部に蓄積され、時間が経つとセラミック化し遠赤外線を出し有機物の分解を促進させます。
- 熱分解炉の構造特許は、有機物が炭化する際に生じるブリッジ形成を防ぐ形状をしています。
- 有機物が炭化する際に発生する有毒ガス(ダイオキシン類)や悪臭も【ヒーターユニット 800℃】で衛生的に無害化・無臭化します。



ダイオキシン類対策 特別措置方に基づく分析結果

分析結果

- 窒素硫化合物濃度
- 硫黄酸化物濃度
- 塩化水素濃度
- 一酸化炭素濃度
- 処理残留ダイオキシン類濃度
- 排ガス中ダイオキシン類濃度 等

株式会社 テルフィープロジェクト 様

濃度計測証明書

計測実施日時番号 東京-09号

発行所 09-091

測定場所	株式会社 三みなろ砂工 通風工室内	測定日	昭化保
測定年月日	平成27年2月21日	依頼者(会社/個人)	昭化保(株) 昭化保様

計測結果表

計測項目	単位	計測値	基準値	検出箇所	計測の方法
ばいごの量	g/m ³	1.1	0.001	—	JIS S-2008
*ばいごのじん量	g/m ³	0.0	—	—	—
硫酸酸化物濃度	mg/m ³	0	—	—	JIS K 4102
硫酸酸化物の量	mg	0.0002	—	0.002	イオン交換膜法
窒素酸化物濃度	mg/m ³	0	—	—	JIS K 4104
*窒素酸化物の量	mg/m ³	0	—	—	化学変換方式
塩化水素の量	mg/m ³	0	—	—	JIS K 4107
*塩化水素の量	mg/m ³	0	—	—	イオン交換膜法
*処理残留量	ng/m ³	100	—	—	JIS X 3008

※この計測結果は計測室内の測定結果のみに基づいており、
換気回数、風速計等 (JIS S-2001) を用いています。

上記の通り 測定結果を証明します。 平成27年2月21日

〒120-0802 千葉県郡区葛飾町3丁目13番1号

(株) テルフィー (代表)

測定員 昭化保 (代表)

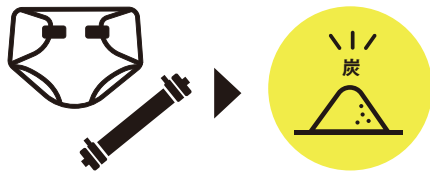
計測員 昭化保 (代表)



灰にして再利用

熱分解炭化物生産機

処理できるもの



オムツやダイアライザーなど
水分を含む感染性廃棄物

※注意：金属製品・ガラス製品・陶器・石類・貝類は
投入できません。

※注意：セラミック化には投入物によって時間が異なります。

処理手順

- ①袋に感染性廃棄物を収容
- ②収容した袋を熱分解炭化物生産機に投入
- ③自動スイッチを押し滅菌開始
(最大温度800℃/12時間)
- ④滅菌完了後、灰に変換される
- ⑤炭を取り出す